

小浜藩台場(松ヶ瀬台場, 鋸崎台場, 川崎台場)(国の史跡)

(福井県大飯郡おおい町大島, 小浜市小浜津島)(松ヶ瀬台場, 大飯発電所, 台場浜公園)

小浜藩台場跡(おばまはんだいばあと)は、小浜藩領であった敦賀の杉津浦から高浜の内浦に至る約 30 か所に計画・築造された台場群である。ここでは福井県大飯郡おおい町大島に作られた松ヶ瀬台場と鋸崎台場(いずれも国の史跡に指定)、小浜市小浜津島に作られた川崎台場について述べる。

概要

- 小浜藩では、異国船に対する警戒体制の一環として、1851 年に幕府に台場築造を届け出て以降、約 30 か所の台場を造り海防を強化した。1854 年には鋸崎・松ヶ瀬台場を築造している。ペリー率いるアメリカ艦隊が浦賀に来航した翌年のことである。

松ヶ瀬台場跡

松ヶ瀬台場は小浜湾の湾口部にあたり異国船の侵入監視には絶好の立地で、2 か所(1 号台場跡、2 号台場跡)の台場跡がある。1 号台場跡は海に向かって横に並ぶ土塁 6 基と土塁に挟まれた 5 か所の砲眼があり、全長は約 50 メートルになる。2 号台場跡は 1 号台場跡より海側にあり直径約 80 メートル、高さ 2.2~2.4 メートル、幅約 14 メートルの半円形の土塁で構築されている。その土塁の内側中央部には、回転式の大砲を設置したと思われる半円形の砲座 1 基、その両側には固定式の大砲を設置したと思われる方形砲座が 2 基ずつ配置されている。また土塁両端部には火薬庫として使用されたとと思われる焼紅弾室跡がある。この台場は赤礁崎オートキャンプ場内にあり、キャンプ場整備に伴い福井県によって遺構調査が行われたのが最初で、1994 年から当時的大飯町教育委員会により鋸崎台場も含めて発掘調査を実施、2001 年に国の史跡に指定された。2 号台場は復元され 2 基の大砲のレプリカが設置されている。なお台場跡を見学するためには赤礁崎オートキャンプ場の入門口から許可を得て場内に入るか、専用の「松ヶ瀬台場跡出入口」から入る必要がある。



鋸崎台場跡

1994 年以降大飯町教育委員会により松ヶ瀬台場跡と合わせて発掘調査が実施され、2004 年に国の史跡に追加指定された。「コ」の字型に並ぶ土塁と土塁に挟まれた 5 基の方眼で構築されている 1 番台場を中心に、正方形の単独砲座台場 2 基、焼紅弾室から構成されている和洋式台場跡である。

鋸崎台場跡は鋸崎の先端にあるが、大飯発電所の敷地内にあるため立ち入ることはできない

川崎台場跡

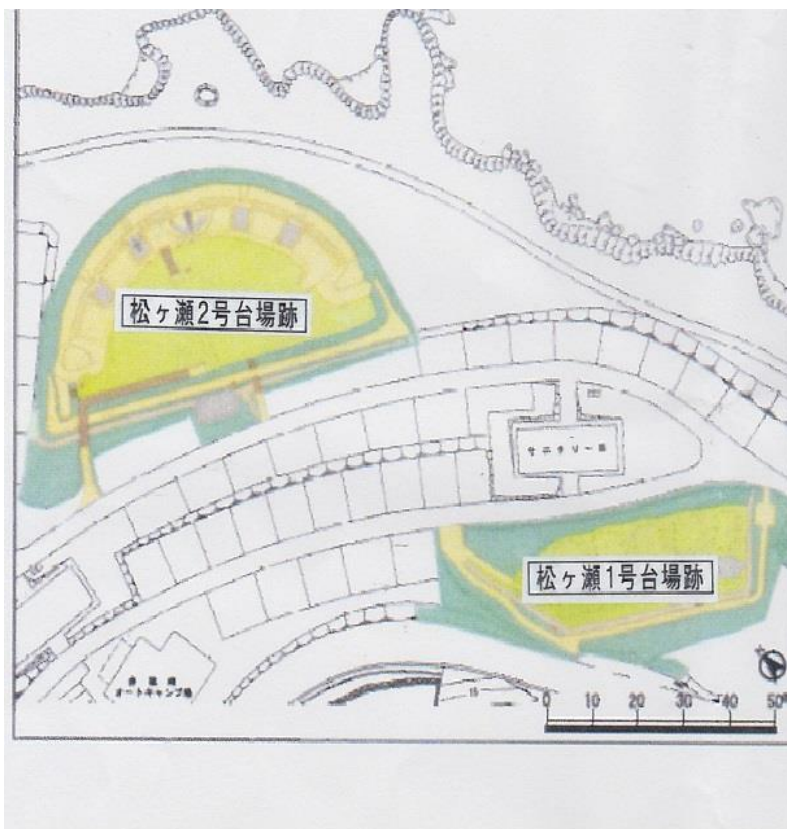
川崎台場は 1854 年(安政元年)小浜藩が川崎町の重田卯右衛門に命じて作らせたものである。小浜城付近の台場はこのほかに 5 箇所(御城浜、海手浦、河崎、松ヶ下、八幡下)に作られ大砲は全部で 55 門、この台場には 7 門が据え付けられていた。台場は重田卯右衛門や黒鍬八兵衛らの奉仕^[6]でつくられ、大砲の鑄造費は町方商人に課せられた。明治に廃止され、跡地は台場浜公園になっている。



歴史

- 1851 年（嘉永 4 年）－ 小浜藩が幕府に台場構築を届け出る。
- 1853 年（嘉永 6 年）－ ペリー艦隊が浦賀に来航。
- 1854 年（安政元年）－ 鋸崎・松ヶ瀬台場を築造。同時期に城下の川崎・海手浦台場なども築造。
- 1994 年-1998 年（平成 6 年から 10 年）－ 大飯町教育委員会により松ヶ瀬台場跡・鋸崎台場跡の発掘調査を実施。
- 2001 年（平成 13 年）1 月 29 日 － 松ヶ瀬台場跡が国の史跡に指定される（指定名称は「小浜藩松ヶ瀬台場跡」）。
- 2004 年（平成 16 年）9 月 30 日 － 鋸崎台場跡が国の史跡に追加指定され、指定名称を「小浜藩台場跡 松ヶ瀬台場跡 鋸崎台場跡」に変更する。

Wikipedia による



松ヶ瀬台場遺跡